

## A 氏邸訪問記(2020.1.8)

### 1. はじめに

前回の A 氏邸訪問は、USB アキュライザーUACU-700 を持参して聴いていただくことでしたが、今回はアナログアキュライザーAACU-1000 を持参して聴いていただくことになりました。また、この機会を利用して、Y 氏、ST 氏にもその効果を確認していただくことにしました。

### 2. A 氏邸のシステムの概要

A 氏邸のシステムは、前回の訪問記以降の変更点は下記のとおりです。

スピーカー：JBL 4410 + YAMAHA 0506(0.22  $\mu$  F のコンデンサーで Low Cut)

プリメインアンプ 1：Triode TRV 35SE (EL34 pp)

プリメインアンプ 2：DENON PMA S10III



なお、KEF LS3 5A は、従来通り QUAD 33 と QUAD 303 で駆動しています。

入力系は、従来通り、CD プレイヤーの DENON DCD S10III と PC と DA コンバーターの SWD-DA20 です。

以上は、入力切替器を通しており、アナログアキュライザーAACU-1000 は、入力切替器の後にセットしましたので、どの経路でも AACU-1000 を通過するようになりました。

このようなシステムで AACU-1000 の音質向上の効果を確認していただきましたが、さらに、USB アキュライザーUACU-700 も持参しましたので、PC オーディオでは、両者の併用効果も確認しました。

音源は CD プレイヤーの CD 再生の他、A 氏の PC のメモリー内のファイル音源や PC のドライブからの CD の再生ですが、iPad/iPhone からの Bluetooth 再生も行うこととしました。

### 3. A 氏邸のシステムの試聴経過

まず、最初は JBL を Triode のアンプで駆動し、DENON の DCD S10III による女性ボーカルの CD 2 枚の再生から始めました。JBL と Triode のアンプの相性も良く、明るく屈託のない音でしたが、AACU-1000 を加えると、CD 特有のエッジがとれ、ハスキーな声の細かな表現が出るようになり、バックのピアノやパーカッションなども明晰になりましたが、その反面、シンバルなどの刺激の強い音を好む向きには物足りないところがあるかも知れません。

次にエルガーの威風堂々を再生しましたが、AACU-1000 無では、ブラスは輝いていますが、弦がきつく感じられ、AACU-1000 を加えると弦の質感も改善されました。それでも、音調が少しハイ上がりではないかということで、ST 氏が JBL のユニットのレベル調整を行った結果、さらにバランスが良くなりました。

ここでアンプを DENON のアンプに替えましたが、押出し感はあるものの、硬質感が目立ち、Triode の真空管アンプとの相性の良さが分かりました。

ここからは、A 氏の PC と SWD-DA の組み合わせで、PC オーディオの再生に移りました。まず、メモリーで持参した AACU-1000 を入れて録音した 5.6MHzDSD 音源をいくつか再生しましたが、アナログ盤、NHK の BS 放送録画、ベルリンフィル DCH、YouTube などからの録音ですが、A 氏によれば、以前にお渡しした、AACU-1000 を入れないで録音した 5.6MHzDSD 音源より、ずっとクリアーになっているとのことでした。YouTube からの DSD 録音音源に対応するベートーベンの合唱幻想曲の YouTube からのストリーミング再生も行いましたが、ピアノやバックのオーケストラのピリオド楽器の質感など、YouTube とは思えないリアルさが確認できました。

UACU-700 を SWD-DA20 の USB 入力端子に装着することができますので、アキュライザーなし、AACU-1000 のみ、UACU-700 のみ、AACU-1000 と UACU-700 併用の比較を行いました。AACU-1000 のみ、UACU-700 のみでもそれぞれの良さは出てきますが、併用の場合が最良ではないかということになりました。

なお、あまりクラシックを聴かれない Y 氏から、AACU-1000 を加えると、ピアノの残響音が消えるのではないかという疑問が出ましたが、実際の残響音とピアノ線の共鳴弦の共鳴と、よぶんな響きが加わって残響音のように聴こえてしまうことがあることや、高音部の打鍵の立ち上がりや左手の明晰さの向上について説明しました。

ここで、PC のドライブからの CD 再生に移り、AACU-1000 と UACU-700 の併用効果の確認がとれました。

さらに、iPad からの Bluetooth 再生をやってみようということで、Y 氏の Bluetooth レシーバー WSKY の BT-B19 を使ってみることにしました。



最初にミニジャック/RCA 変換ケーブルを使用して、iPad 内収納音源の再生で、アンプに直接入力してみました。AACU-1000 を加えても、Bluetooth の限界みたいなものを感じます。そこで BT-B19 の光出力を SWD-DA20 の TOS 端子に入力して、DA 変換を SWD-DA20 で受け持たせると、AACU-1000 の効果が相まって、先ほどの Bluetooth の限界が破られた印象で、これには Y 氏も驚かれていました。

編集者の iPhone から Spotify のストリーミング再生などと ST 氏の iPhone から iPhone 内の音源や先ほどの YouTube 音源のストリーミング再生を行いました。Y 氏の iPad と同様、iPhone でも Bluetooth らしからぬ音がしていました。

ふたたび PC オーディオに戻り、Universal Music の MQA-CD と対応する CD のリッピング WAV 音源をメモリーから読み出して比較しましたが、SWD-DA20 には MQA のデコード機能がないため、その差はわずかで、心持ち、MQA-CD リッピング WAV 音源の方が細かい表現力が出ているかなという程度でした。

最後に KEF と JBL の比較ということで、PC の CD ドライブからパガニーニの V 協奏曲の CD を AACU-1000 の有無で聴いてみましたが、KEF のアンプの入力ゲインを調整すると AACU-1000 無でも、艶やかな音がしており、AACU-1000 有では、ともにグレードが上がって、KEF と JBL 双方の特徴を残しつつ、聴かせどころがよく調整された状態になりました。

#### 4. まとめ

A 氏のシステムで、種々の音源再生で、アナログアキュライザー AACU-1000 の効果に加えて、PC オーディオにおいては USB アキュライザー UACU-700 との併用効果も確認できました。これらの対応を行った場合、YouTube のような音源でも予想外に良い音質が得られ、また、モバイルからの Bluetooth 再生でも再生ルートに工夫すれば、侮れない音質が得られることが分かりました。

A 氏はアナログアキュライザー AACU-1000 の効果に満足され、Y 氏は Bluetooth 再生

の音質向上に自信をもたれ、A氏もご自身のモバイルで **Bluetooth** 再生にチャレンジしてみたいという意向を示されました。A氏のシステムの改善には、ST氏が種々ア  
ドバイスされ、アンプの選択や全般的な調整なども成功していることが確認できまし  
た。

以上